

第6回上山市みらいの学校構想検討委員会 会議要旨 (R7.11.27)

■報告事項

(1) 第5回検討内容の振り返り 資料 1

① 構想案の方向性と市民説明会で出された意見が合致したこと、反対意見が特段なかつたことは良かった。また、小学校の最終的な1校統合を望む意見や中学校施設の老朽化から早期の統合中学校の新設を望む意見も多くあったと思うが、事務局としての具体的な施設整備・統合案はあるか。

(事務局) 具体的な施設整備・スケジュール等については、検討委員会から教育長に構想を答申いただいた後、統合形態や小中一貫教育の方向性等を含めて、令和8年度以降に市で多面的に検討していくので、令和7年度の本委員会による構想策定の段階では、事務局として具体的な案はありません。

検討経過としても、令和6年8月に、委員の皆さんに質問した当初から「本市小中学校の将来の基本的なあり方」として、魅力ある学校づくりや時代に対応した教育環境など「教育の方向性をどうするか」を第一に検討を進め、「望ましい学級数や学級人数」、「複式学級の解消」などが議論され、その実現方法の一つとして「学校統廃合」が出てきたことになります。

(結果) その他、意見等なし 全委員 報告内容を了承

(2) 今後の検討の進め方（予定）について 資料 2

(事務局提案) 第7回検討委員会は12/23を予定しているが、本日の協議の進捗次第で文書会議を含めて開催方式を提案。本日の協議の最後に改めて委員に諮る旨を説明。

(結果) その他、意見等なし 全委員 報告内容を了承

(3) 市民説明会で出された意見（協議の参考とすべき意見の確認） 資料 3①

① 参加人数・アンケート件数が少なく、当事者意識の醸成が本当に課題である。また、アンケート件数が参加人数の約半分である理由は何か。

(事務局) 学校の統合案（場所・年度等）が定まらず、自分の子どもが具体的にどうなるのか分からぬ現在の段階では、当事者意識が高まりにくい点がある。

また、アンケートは、会場で発言された方は控える傾向があり、発言しづらかった方が、説明会終了後やインターネット経由で回答している傾向がみられた。

(4) 学校統廃合事例・小中一貫教育の事例について **資料4**

① 市民の関心として、どのような理由で小中一貫教育を望むのかが気になる。単に小中併設校を新たに創設した場合、建物が一つになるという環境面から「小中一貫教育」を選択しているのか、「小中一貫教育」の教育内容自体に魅力があり選択しているのか、市民説明会で発言している方の傾向はどちらが多いか。

(事務局) 参加者の中には、「小中一貫教育」の経験を踏まえ発言される方もいたが、傾向としては、最終的には小中学校ともに1校になることを見据えた環境面や全国的に小中一貫教育の導入が進んでいることを理由として挙げている方が多いのではないかと思われる。アンケート結果でも「小中一貫教育」の制度自体についてのイメージができるとの回答もある。今回動画で説明した内容等を分かりやすく伝えていくことが大事だと考えている。

② 「小中一貫教育」の導入や取組自体は良いと思う。保護者からも小中一貫校への関心は高い。ただ、この「小中一貫教育」の導入が何年後になるのかによって、ニーズを聞く相手も未就学児の保護者になるなど色々変わってくると思う。

③ メリット・デメリットそれぞれあるだろうが、メリットの方が大きいと思うので、「小中一貫教育」導入の検討は進めて良いと思う。

④ アンケート結果にもあるように、「小中一貫教育」の制度自体について、あまり理解できていない。現在のままでも、「小中一貫教育」でもそれぞれメリット・デメリットがある。簡単には決められない。

⑤ 保護者の思いとして学力の向上が大切であり、その流れで「小中一貫教育」の導入が求められていると感じる。また、昔は年の離れた子ども達で仲良く生活してきた記憶があるが、「小中一貫教育」における異年齢交流（小1～中3）に通じるものがあるのではないか。これからのお子様も達に、「小中一貫教育」の導入は良いと思う。

⑥ 今年度、小中教育連携ということで、南小学校と南中学校がテーマとして研究に取り組んできた。その際、小中学校の先生達が何度も集まり、「こうゆう子ども像でいこう」、「こうゆう授業をしよう」など進めてきたが、やはり小中学校が離れているので、理解が進まなかつた部分もあったと思う。距離が近ければもう少し理解が進んだのではないかと思う。ただ、小中学校の校舎について、一緒・別々のどちらが良いのか。9年間の一貫教育とした場合、新庄市のように「4年（前期）-3年（中期）-2年（後期）」のシステムが上山市にと

って良いのかは現時点での判断は難しい。現在、上山市の6年（小学生）-3年（中学生）のように、小学6年生が責任をもって色々な役割を担えるというメリットもある。上山市の教育として何を目標・狙いとしていくかによって、校舎をどのように整備していくのか（小中一緒・別々）、9年間をどのように構成していくのかなどを考えると、教職員としても「小中一貫教育」の研究を進めていく必要があると感じた。

- ⑦ 現在のままで、「小中一貫教育」でも、それぞれメリット・デメリットがある。制度種類も、建物の構造（一体的・別々）でも、どちらが一方的に良いというわけでもないし、それぞれメリット・デメリットがある。選択した制度や学校の構造に順応していくことになるが、**資料4**最後の四角囲みにあるとおり、令和8年度以降に市が考える「小中一貫教育」の検討に基づくことが重要だと思う。
- ⑧ 「小中一貫教育」のメリット・デメリットもあるが、全体では複式学級解消や教育機会の平等を求める声など保護者意見をくみ取り、先延ばしせず一刻も早い市の方針決定が大事。学校を新設するならば、とにかく時間を要する。最短で5～6年、長ければ10年以上かかるケースもある。**資料4**最後の四角囲みのとおり、市で令和8年度以降に「小中一貫教育」の導入の検討を進めていく方針で良い。「小中一貫教育」の導入に賛成する。
- ⑨ 今後の子どもの人数の推移や、新たに建設する場合を考えれば、小中学校を合わせて一つの校舎が良い。人やモノ、教育に係るあらゆる資源を共有することができる。また、学校を新設するならば、20～30年だけでなく今後ずっと利用していく建物になるので、やはり校舎は一つに合わせて建設した方が良い。
- ⑩ これからの中の教育の形として、「小中一貫教育」の導入は必要だと思う。新庄市のように子ども達の発達も早まっていることや、問題行動や不登校の減少を考えれば、明倫学園の取組も大変良いと感じた。
小中学校で校舎を一つにする場合、今後の子どもの人数推移と統合する年度によっては、明倫学園よりも広大な土地が必要になると思うが、保護者が希望するのであれば、「小中一貫教育」の取組は、上山市にとっても大変魅力的なものになってくると思う。
- ⑪ 現在、小中連携教育を進めていると思うが、小学校と中学校では、組織や文化が異なるので、実際は一つの方向・教育目標にベクトルを向けて進めていくのはとても難しい。「小中一貫教育」の種類でいえば、指揮命令のトップとなる校長職が複数になる「小中一貫型小学校・中学校」よりも、一人の校長先生の考えのもとに教職員組織が編成される「義務教育学校」が良い。
校長職が複数になる「小中一貫型小学校・中学校」では、それぞれの校長先生の考えによ

り「小中一貫教育」が進めづらい。「義務教育学校」では、一人の校長先生の考えのもと「小中一貫教育」、「学校教育目標」が進めやすく、複数の教頭先生がいることで、教職員も仕事を進めやすいと、以前明倫学園を視察したときに聞いている。ただし、制度によりメリット・デメリットがあり、完全なものはないことから、覚悟をもって決めていく必要がある。導入自体は総論賛成、各論は今後の検討次第であると思う。

⑫ 各委員の意見を総じると、現在のままでも、「小中一貫教育」でもメリット・デメリットがあるが、上山市の子どもが、小学校から中学校にかけて、連続してキチンと育つていける環境を整える機能や仕組みが必要だということだと思う。

（結果）概ね小中一貫教育に肯定的だが、構想への記載内容は、次の協議事項で検討することで報告内容を了承

■協議事項

（1）上山市みらいの学校構想（最終案）について 資料5

○前回検討 修正・追加意見の反映 確認事項・青文字

（結果）意見等なし 全委員 修正・追加内容について了承

○市民説明会意見 参考とすべき事項 協議事項・黄色・緑文字

■中川小学校で、複式学級の早期解消を求める意見が多数あること

①P21に、「複式学級のためのサポート体制の充実」とあるが、例えば学校の統廃合に10年以上の期間を要した場合、それまで継続したサポートは可能なのか。具体例はあるか。また、複式学級解消のスピード感を求める意見が多くあったと思うが、保護者は納得できるだろうか。

（事務局）

現在、中川小学校の複式学級1学級（2・3年生）は、教職員である担任の他に、サポートスタッフとして市の会計年度任用職員を1人、週6時間配置し、体制を厚くして対応している。生活など複式で行うものもあるが、教科は、できる限り単学級と同じ人的措置を行っている。

また、スピード感が求められるなかでサポート体制の充実はおかしいのではないかと思われるかもしれないが、統合には時間要するので「統合までに取り組むべきこと」として、現在抱えている複式学級の課題に、しっかり対応していく考えである。

（結果）その他、意見等なし 全委員 修正・追加内容（P13.P21）について了承

■小中一貫教育の導入、小中学校併設1校の新設を望む意見が多数あったこと

委員長「小中一貫教育の導入については、報告事項（4）の各委員の意見から賛成意

見多数で、本委員会としても望ましい」と認識している。記載内容についてはどうか。

(結果) 意見等なし 全委員 修正・追加内容 (P17. P18. P21) について了承

■特別支援教育に係る教室数・設備面を考慮した検討を望む意見があつたこと

① P60. 61 の表「6 小中学校の統廃合パターン (案)」の小学校2校統合パターン北エリアの令和7年度 紫色の特別支援学級欄の数値（知的7学級、情緒7学級、肢体1学級 合計8学級）について確認をお願いする。合計値からすると内訳が異なる。

(事務局確認後) ⇒ (知的4学級、情緒3学級、肢体1学級 合計8学級) に訂正します。

② P60. 61 の表「6 小中学校の統廃合パターン (案)」の表の欄外上部に青文字、赤文字で記載されている「望ましい学級数、望ましい1学級あたりの児童生徒数」の「以上」という表記は、以前の検討委員会で、第3章上山市の教育環境としてより望ましい学校の規模 (P15・P16) を検討してきた過程で、削除または「程度」の表記に訂正したと思うが、この点の整合性についてはどうか

(事務局) ご指摘のとおりですので、訂正いたします。

(結果) その他、意見等なし 全委員 修正・追加内容 (P7. P10. P11. P13～P15. P17. P18)

について了承。P60. P61 児童・生徒数の推移 (表) の一部は修正対応で了承

(4) その他について

① 資料5 P20 の「中1ギャップ」について用語解説集に追加した方が良い。

(事務局) 巻末 P62 の用語解説集に追加する。

(事務局提案) 資料2 今後の検討の進め方 (予定) で説明したとおり、第7回検討委員会は12月23日を予定しておりましたが、本日の協議結果と意見を反映した構想(最終案)の確認のみとなると思われます。

書面上の最終確認であり、確認に時間を要すること。季節柄、年末・降雪などの冬季であることを踏まえ、委員の皆様がよろしければ、収集方式ではなく、書面上の文書会議 (資料を配布して意見を事務局で集約する方式) での開催も検討しておりますがいかがでしょうか。委員の皆様にお諮りいたします

(結果) ・次回 (12/23) は文書会議での開催とし、構想の最終確認となることを了承。

- ・校正・追加記載、体裁調整、誤記訂正等は、委員長と事務局に一任で了承。
- ・令和8年1月以降の予定については、事務局から再度提示することで了承。

■閉会